

### \*太陽塔望遠鏡で撮影された太陽カラースペクトル展示

2012年3月、京都の龍谷大学で日本天文学会春季年会が開催された。その会場で懐かしい方にお会いした。京都大学名誉教授の牧田 貢氏である。牧田さんは筆者が昭和41年(1966年)東京天文台岡山天体物理観測所から三鷹の東京天文台に異動した際、東京天文台分光部所属で太陽塔望遠鏡の手ほどきをしてくださった方である。筆者が塔望遠鏡で働き始めた姿を見た塔望遠鏡の主のようであった末元善三郎氏が岡山天体物理観測所に65cmクーデ型太陽望遠鏡を建設予定であったことから、中桐はそのクーデ型太陽望遠鏡の勉強のため三鷹の塔望遠鏡にやって来たと納得されていたことを思い出す。牧田さんはその後京都大学に移られ理学部附属天文台長をされていた。その牧田さんが、最近の筆者の活動を知っておられて、太陽塔望遠鏡で撮影した太陽のカラースペクトルを2本持っているが、中桐君に渡しておいた方がいだろうと、譲ってくださったのである。このスペクトルは太陽塔望遠鏡の半地下の分光器室に牧田さん達が製作された分光器で撮影されたもので、分光器の色収差による焦点補正を施した曲線のフィルムホルダー(写真1)を使って撮影されたものである。



写真1 手前の曲線のフィルムホルダーが使われた

使用された分光器は既に存在しないが、その色収差に合わせた曲線のフィルムホルダーは残っていた。同じ長さの直線のフィルムホルダーも残っていた(写真1の左側)。

今回は譲渡された2本のフィルムの1本を、展示ケースをつくって太陽塔望遠鏡半地下室の元分光器の部屋に展示した。この半地下の分光器室はすでに国立天文台分光器資料館状態であり、非常にいい展示が出来たと思っている。写真2が半地下の分光器資料館に、フィルムホルダーと並べて展示された牧田さんから頂いた太陽スペクトルの展示ケースである。この場所にはアーカイブ室新聞第598号に「太陽塔望遠鏡地下分光

室に太陽スペクトルを展示」(2012年6月1日)という記事を書いた乗鞍コロナ観測所から持って降りた長い太陽スペクトルを展示していたが、その長いスペクトルは半地下室の東側壁面に展示した(写真3)。

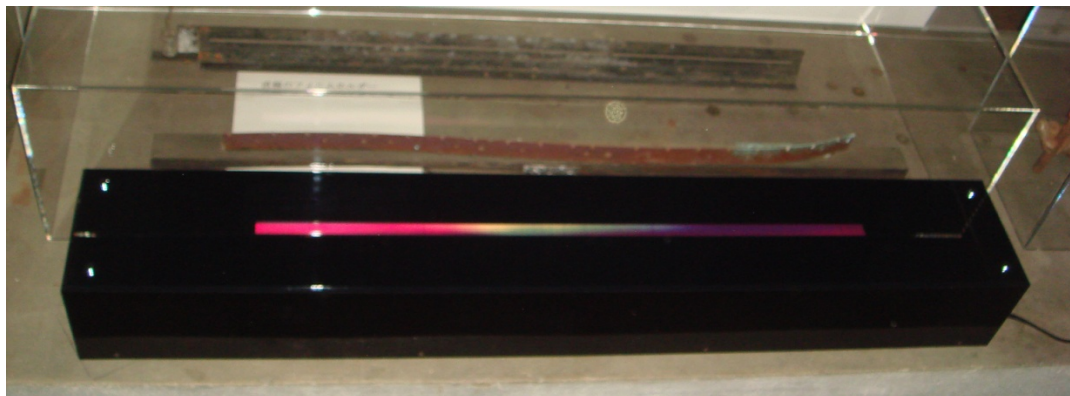


写真2 フィルムホルダーと並べて展示された太陽カラースペクトル

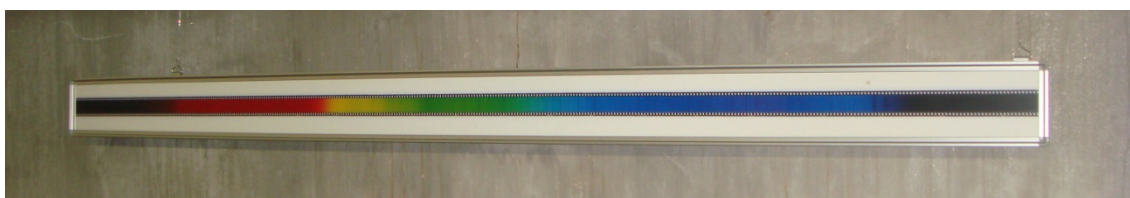


写真3 太陽塔望遠鏡棟半地下室東壁面に展示された太陽スペクトル

今回展示したスペクトルも波長の同定をしていない。主な特徴的なスペクトルを写真4、5、6、7、に示す。

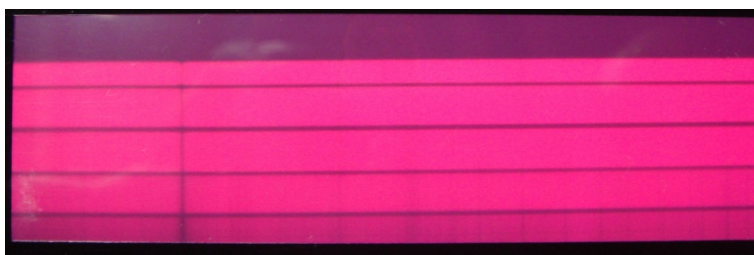


写真4

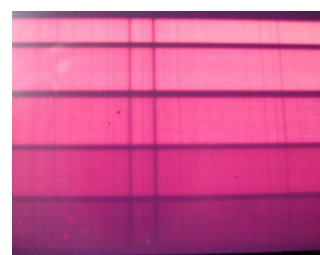


写真5

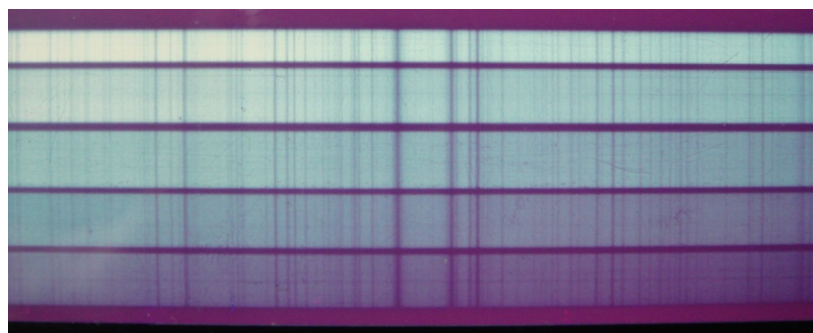


写真6

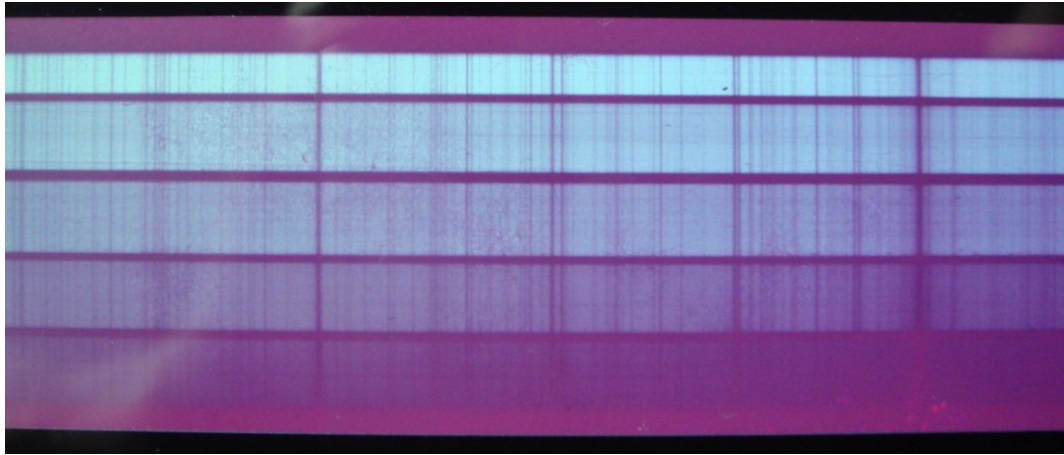


写真7

太陽塔望遠鏡は昭和43年（1968年）に岡山天体物理観測所に後継機である65cm太陽クーデ望遠鏡が出来て、その役目を終え40数年間使われることはなく、最近までほとんど人を寄せ付けなかった。2008年に発足した天文情報センター・アーカイブ室の手によってこのような展示も増え、分光器資料館として充実して来たと思っている。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)